

今までの水流実態説明プロジェクトでわかったこと。

【資料】 河川水の利用状況

河川水の利用状況

多摩川の水利用の歴史は古く、江戸時代から二ヶ領用水(当時は四ヶ領用水)、玉川上水などによって、沿川および武蔵野台地のかんがい用水や江戸の生活用水として広く利用されてきた。

現在では、昭和32年に小河内ダムが竣工し羽村取水堰や小作堰などで取水をしており、首都圏の重要な水道水源となっている。

工業用水として、川崎市等に約4m³/sec利用されている。

農業用水としては、都市化により減少し、現在では約440haのかんがいに利用されている。

発電用水としては、小河内ダム直下に位置する多摩川第1発電所など、現在5箇所の発電所で約85m³/secを利用し総最大出力46,100kWの電力供給が行われている。

